

主要事務事業戦略シート

令和2年度
水道局
水道局長 斉藤 平

局・区の使命	生活基盤施設である市営水道の整備や機能更新を進め快適で安心な市民生活を支える。
事業選択・重点化・見直しの考え方	水道は、市民の生活や経済活動に欠くことのできない重要なライフラインであるため、「安全で安心な水の安定的な供給」が求められていることから、災害に強い「強靱」な水道、安定した「持続」可能な水道、「安全」で安心して利用できる水道という3つの基本方針のもと、千葉市水道事業中期経営計画に基づき、水道施設の耐震化及び整備を重点的に行う。また、抜本的な経営改善を図るため、市営水道と県営水道の統合・広域化を目指していく。 重点化する事業:水道施設の耐震化 見直しする予定の事業:水道事業運営の経営改善

施策			9-9-9		その他							
No.	新規	事務事業(業務)名	事務事業(業務)概要		現状分析			課題抽出		今後の方向性		所管課
			目標(目的) 【(事務事業(業務)を行い)誰(何)が、どのような状態になることを目指すのか】	主な内容 【サービス等の提供内容や提供先】	事務事業(業務)に必要な行政資源	コスト換算 (単位:百万円)	行政コストの合計額 (単位:百万円)	主な実績・効果 【利用者数・件数等】	分析・評価 【現在どのような状態で、どのような課題があるのか】	改善・改革の手法	今後の方向性	
A-1		水道事業運営の経営改善	安全で安心な水の安定供給を目指す	給水区域内の市民への水の供給	ヒト	職員 25人 (正規 22.00人 会任 3.00人)	268	3,722	【R1】 給水人口:46,043人 累積欠損金 0円 ※一般会計繰入金のうち収支差額補填分 経営基盤強化に要する経費 427百万円 資本的収支差額の補填に要する経費 645百万円	⑧ その他	以下の2点について、県と協議を行う。 ・県水との統合(水道広域化推進プラン、水源活用方策を含む) ・分水料金の低減	水道総務課 水道事業事務所
					モノ	浄水場等 7か所 送配導水管 371km等	677	<参考> 前年度決算額				
					カネ	歳出予算額 収益的支出 2,177百万円 資本的支出 1,545百万円	2,777	歳出決算額 収益的支出 2,058百万円 資本的支出 1,509百万円				

施策			4-1-1		防災対策の推進								
No.	新規	事務事業(業務)名	事務事業(業務)概要		現状分析			課題抽出		今後の方向性		所管課	
			目標(目的) 【(事務事業(業務)を行い誰(何)が、どのような状態になることを目指すのか】	主な内容 【サービス等の提供内容や提供先】	事務事業(業務)に必要な行政資源		コスト換算 (単位:百万円)	行政コストの合計額 (単位:百万円)	主な実績・効果 【利用者数・件数等】	分析・評価 【現在どのような状態で、どのような課題があるのか】	改善・改革の手法		今後の方向性
B-1		水道施設の耐震化	災害に強い強靱な水道と するため、自然災害等による被災を最小限にとどめ、被災した場合であっても、迅速に水道水の供給を行える水道を目指す。	水道施設の耐震化及び二系統化	ヒト	職員 1.15人 (正規 1.15人、非常勤 0.00人)	8	28	【R元末実績】 水道事業中長期経営計画 ・整備延長 990mのうち990m 進捗率100% ・送水ポンプ場改良 進捗率13.2% 【効果】 水道施設の二系統化に伴い、災害などが発生しても、継続して水を供給できる。	【水道施設の耐震化状況】 H30 ①導水管・送水管・配水本管 耐震化率 41.8% ②浄水施設 耐震化率 85.7% ③配水池 耐震化率 85.7% 【現状】 水道施設の耐震化率は、全国平均を上回っている状況であるが、送水管は一系統のため破損した場合、水道水の供給に支障が生じる可能性がある。 【課題】 更新に合わせて耐震化を行うため、重要度、老朽度などを考慮し、費用の平準化を図る必要がある。 また、送水のためのポンプ場等を整備する必要がある。	② 課題抑制	水道事業中長期経営計画に基づき、水道施設の二系統化を行う。 R3年度以降は、次期中長期経営計画に位置付けて実施していく。	水道事業事務所
					モノ			<参考> 前年度決算額					
					カネ	歳出予定額 20百万円 (うち一般会計からの繰入金 0百万円) 【主なもの】 業務委託費 20百万円	20	0					